

地域創生における合意形成

国立大学法人 愛媛大学 社会連携推進機構

地域専門人材育成・リカレント教育支援センター副センター長 准教授 正本英紀

まずは背伸びをしてみましょう



講師紹介

正本英紀 (まさもと ひでのり)

技術士 (環境部門)

1992年, 理学部から, 当時としては異例の徳島県庁の「**行政事務**」職員として入庁。

気候変動などの環境対策や空港整備などに携わっていたが, 「**職員研修の改革**」と「**地方創生**」の2つの業務を遂行し, 「**中堅人材の育成**」に強い関心を持つようになる。

2021年, 県庁を退職し, 愛媛大学社会連携推進機構の**地域専門人材育成・リカレント教育支援センター**准教授として着任。2022年より副センター長。

2023年からは, **Town&Gown Office 設置準備室 副室長**を兼務。

所掌

「**地域共創型**」リカレントプログラムの推進
 ○地域専門人材の育成
 ○地域共創型リカレント教育のコーディネート

実施内容

地域ニーズの把握・分析と, ニーズに応じたプログラム構築支援
 新たな分野における地域共創型プログラム構築・実施支援
 地域協働型センターと連携したプログラム実施



経歴から得られる情報

MASAMOTO, Hidenori
 技術士 (環境部門)
 愛媛大学

地域専門人材育成・リカレント教育支援センター副センター長 准教授
 (兼 Town&Gown Office 設置準備室 副室長)
 2020年 徳島県 Society5.0推進課 配属(1年)

- Society5.0実装
- 地域イノベーション
- コワーキングスペース
- サテライトオフィス
- ドローン普及

2021年 地域専門人材育成・リカレント教育支援センター配属

1992年 理学部から徳島県庁に入庁(環境局環境保全課 配属, 3年)

リオサミットの情報収集から**地球温暖化対策取組方針策定**まで

1996年 環境政策課 配属 初の総合型計画「**徳島環境プラン**」の策定

行政部局と大学・博物館・地方気象台との協業と取りまとめ

2005年 南部総合県民局 保健福祉環境部 配属(3年)

総務から**工場検査, 現場施工(植樹や育苗)**までを一人で担当

産学民官連携の「**みなみから届ける環づくり会議**」の創設

2008年 環境首都課 配属(5年)

普及啓発から**プロジェクト実施へ(実証試験や外部資金導入)**

学民官の人材を集結した新しい「**温暖化防止活動センター**」設立

2013年 交通政策課(後に交通戦略課)配属(2年)

地方空港を活用した**広域交通ネットワークの構築(人材・貨物)**

2016年 自治研修センター 配属(3年)

地域人材の活用, **科学技術分野講義の導入, 合意形成の重視**

2019年 地方創生推進課(神山オフィス) 配属(1年)

コワーキングスペース活用, サテライトオフィス誘致, **知識産業集積**

環境計画

現場業務

低炭素社会

航空

地方創生

Sustainable Development
 文言主義からデータ主義へ

現場型公務員として着任
 人材・物資・資金の不足 → 産学民官連携へ

Green New deal
 コンソーシアムとスーパーバイザー
 関西広域連合リーダー

New Tourism
 SDGs

次世代公務員育成
 地域イノベーション マッチング

環境と開発の統合

地域再生 官民協働

科学技術を活用した 地方創生

未来社会の構築

これまでの実績では常に産学民官連携



新たな合意形成手法の導入(徳島大学 上勝学会)



徳島県新規採用職員研修(阿南高専との協業)



サテライトオフィスへの赴任(徳島県神山オフィス)



インベーターツアーの企画(ANAデジタルデザインラボ)



コワーキングスペースの強化(IAMAS 島根大学 会津大学)



スタートアップインレジデンス(地元NPOとの協業)

過去の仕事は現場系、かつ競争的資金獲得が前提



どんぐりプロジェクト(剣山南嶺)



森林バイオマス賦存量調査(那賀川流域)



海洋バイオマス賦存量調査(牟岐町)



真空ガラス先行導入試験(那賀町)



通勤交通社会実験(今切工業団地)



水上バスの試験導入(新町川)



関西広域カーボンクレジット(関西広域連合)



うちエコ診断(吉野川市)

[R3補正 文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職のためのリカレント教育推進事業」採択プログラム]

地域創生イノベーター育成プログラム(東予)



26人の内外有識者、51団体との対話で実現
「ソーシャルイノベーター」の創出を
目指すプログラムへ全面的に刷新

令和4年度 愛媛大学 履修証明プログラム
ソーシャルイノベーター創出
地域創生イノベーター育成プログラム(東予)
【ドラフト】

履修科目	履修時間	履修方法
1. 地域創生イノベーター育成プログラム(東予)の概要	10分	オンライン
2. 地域創生イノベーター育成プログラムの意義	10分	オンライン
3. 地域創生イノベーター育成プログラムの実施	10分	オンライン
4. 地域創生イノベーター育成プログラムの効果	10分	オンライン
5. 地域創生イノベーター育成プログラムの評価	10分	オンライン
6. 地域創生イノベーター育成プログラムの未来	10分	オンライン

1 多彩な外部講師陣の登壇

現場の第一線で活躍する産学民官の若手・中堅人材を投入！講師の半数以上に外部講師を採用(21名/40名)

2 充実のサポート体制

- ①チューターを3名配置し、大学院進学や関係機関の紹介まで幅広く対応
- ②キャリアコンサルタントによる就職や転職、進学等に関するアドバイスの場を創設するとともに、オンラインの支援コンテンツを提供
- ③労働局とタイアップして、受講に向けての情報提供を推進するとともに、就職・転職支援を実施

3 付与される称号

大学の正規の履修証明プログラムとして実施され、履修した受講者に対しては「地域創生イノベーター」の称号を付与

4 次世代を担う新たな知見の習得

SDGsを中心に、Society5.0/DX、CN/グリーンイノベーション、イノベーションマッチング、レジリエンスなど社会の最新動向を学ぶとともに、産学民官/異分野連携に必要な合意形成手法についても、きちんとと学修

【事業責任者】 社会連携推進機構長 若林 良和 (理事・副学長)

①事業実施委員会による提言

愛媛大学 社会連携推進機構 (地域協働センター一係、地域専門人材育成・リカレント教育支援センター)

愛媛県技術士会、愛媛県中小企業家同友会、NPO法人えひめグローバルネットワーク、(一社)えひめ暮らしネットワーク、愛媛労働局(職業安定部)、愛媛県(産業人材課)、西条市(政策企画課)

②地域におけるプログラムの展開

西条市、久万高原町、宇和島市における地域人材育成に向けた「地域ミーティング」の実施とプログラム参加への勧誘

西条市SDGs推進協議会等、未来社会を構築しようとしている産学民官コンソーシアムの構成員への受講機会の提供

③大学院社会人入学の促進等

地域・レジリエンス学環(R5開講予定)との連携や人文社会研究科等大学院への社会人入学の推奨による更なるスキルアップ

地域で実施する地域ビジネス講座等からのスタートアップとしての受講の推奨

地域主導型のリカレントプログラムの創出

一線に立つ産学民官の外部講演者が登壇



1 地域を取り巻く新たな潮流

藤井 靖史 Society5.0
西会津町CDO(デジタル最高責任者)、内閣府オープンデータ推進、大手企業を歴任の後、創業。さらに会津大学UBICの准教授に就任し、Aiyumu取締役を経て現職という異色の経歴。

松本 広重 カーボンニュートラル
九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所副所長。固体電気化学、イオン導電性固体の基礎と応用についての研究を通じて、人間活動の環境への負荷を抑制し、低炭素社会を目指す研究を推進。

小林 茂 イノベーションマッチング
IAMAS教授。民間企業の技術者から研究者に転身。多様なスキル・視点・経験を持つ人々が協働でイノベーションに挑戦するための手法や、その過程で生まれる知的財産を扱うのに適切なルールを探索。

服部 大輔 科学技術コミュニケーション
島根大学准教授。JSTスタッフ、徳島県地球温暖化防止活動推進センター上席研究員、四国大学准教授を経て現職。産学官連携や産学民官連携に必要な科学技術コミュニケーションの普及・定着に尽力。

福野 善介 オープンデータ活用
人の役に立つデジタルソフトウェアを作ることにやりがいを感じ、高専卒業後、最初の会社を共同で創業。2003年に利用者に最も近いソフトウェアを提供する「e-Shop」を設立。クライアントに対応した、待ち受け画面を最適化する「e-Shop」などを開発。

2 問題解決の方法を学ぶ

加藤 遼 副業・複業
株式会社JOBHUB旅するようにはたら部長。大手からベンチャーまで幅広い業界の人財採用・育成に携わった後、行政・企業・NPOなどと連携して、事業企画・開発・立上りに取り組む。近年は副業・複業の推奨にも尽力。

隅田 徹 サテライトオフィス
株式会社プラトーン代表取締役。日本ケーブルビジョン入社後、社内ベンチャーを立ち上げ、その後起業。徳島県神山町にサテライトオフィスと子会社を設立し、自身も移住の上で、さらに宿泊施設も開発。

大下 真央 キャリアチェンジ
大手航空会社のグランドスタッフ、ラボを経て、経産省次世代イノベーター育成プログラム「始動」に参加。中高生向けの旅×学びの「イ旅」や旅と学びの協議会の設立を担当。

竹内 和啓 神山まるごと専攻
NPO法人グリーンレール事務局長。外資系消費財メーカーの地域担当SEとして数々のITプロジェクトに参加。ネットベンチャーを起業。その後現職。新たに「神山まるごと専攻」の実現に向けて奮闘中。

日野 春菜 コミュニティ
松山市内の急性期病院で勤務後、久万高原町にリターンしコミュニティ・イノベーターとして活動。2003年に利用者に最も近いソフトウェアを提供する「e-Shop」を設立。クライアントに対応した、待ち受け画面を最適化する「e-Shop」などを開発。地域交流拠点「e-Shop」の運営にも参加。

外部講演者も現場の一線に立つ若手・中堅人材を積極的に採用(21名)

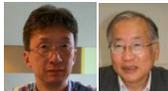
本学に協力していただける皆様の知識・経験をどう組み合わせ活用していくのか

このプログラムを契機に、更なる取組への進展を期待！

※R4プログラム企画書より抜粋。現在内諾を得た段階の講師案(3月末時点)であり、コロナウイルス対策のための日程変更等により、講師が一部変更になる可能性がある。

地域ミーティングの実施 (東予・中予・南予)

地域ミーティング (3回実施)



○専任教員等を、地域づくりや人材交流の拠点に派遣し、地域の課題、地域資源、地域のキーパーソンについて情報共有するとともに、地域が真に必要な人材や知見・技術、人材育成の方向性について話し合う。
○地域のリーダーやキーパーソンに対して、地域創生イノベーター育成プログラムへの参加や受講を呼びかけ。

地域での開催講座

ホリバタ (宇和島市)



○各大学との連携で質の高い教養講座の継続運営の実績
○合意形成やPMIなど現場監督人材の育成が必要
○地域創生型リカレントプログラムに關心
○イノベーションマッチングの活用で宇和島を開国

ゆりラボ (久万高原町)



○ゆりらぼ運営による創業支援講座「ゆりらぼアカデミー」運営の実績
○地域創生型リカレントプログラムとの連結を検討
○コミュニティーなどの先駆的取組一講師としても有望
○ビール醸造のプラン

①地域のキーパーソンをコワーキングスペースに招き、

②新しい地域専門人材の育成に向けたリカレント教育について、

③車座形式で話し合う

西条市
久万高原町
宇和島市

の3か所で実施



連携

キーパーソン (イメージ)

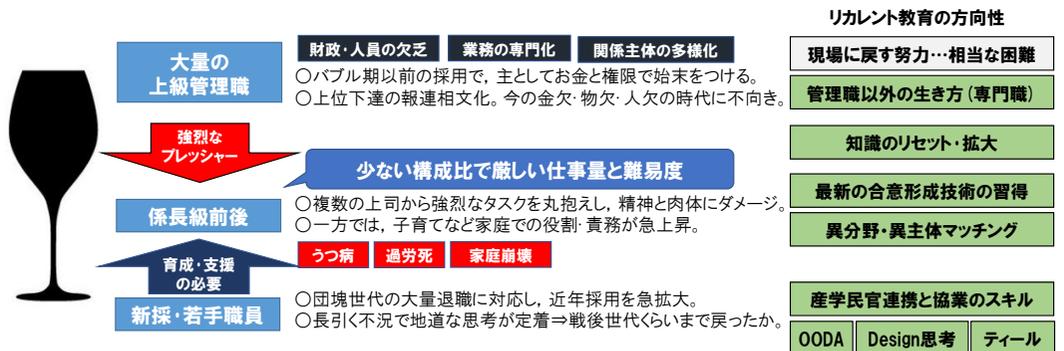


商工団体や移住者支援組織、NPOなどを招き、内外の新たな動きと、対応する人材の育成の必要性に関する共通認識を醸成していく。

ここでちょっと休憩
隣の人に今日の朝ごはんについて聞く (1分)

みなさんを取り巻く厳しい状況

現在の組織構成はワイングラス構造

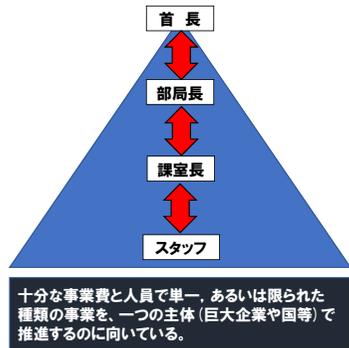


産学民官連携による、民間主導での実施がブレイクスルーとなる！

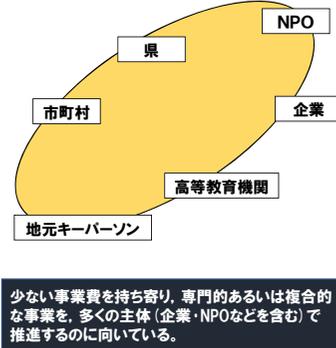
ヒューマンネットワーク構築はこれからの職員・社員の大きな課題

垂直型社内分業から 水平型社会分業へ

垂直型社内分業



水平型社会分業



イノベーションは技術革新ではない

1.イノベーション≡新結合

国の経済白書(1956)での誤りから全てがスタート

新しい、または大幅に改良された

- ①製品またはサービス
 - ②プロセス
 - ③新しいマーケティング方法
 - ④商慣行・職場組織
 - ⑤外部との関係による新しい組織方法
- 【欧州標準化委員会 CES/TS】

○新規の、もしくは、既存の知識・資源・設備などの**新しい結合**

【シュンペーター, 1977】

○より優れた、より経済的な財やサービスを創造すること

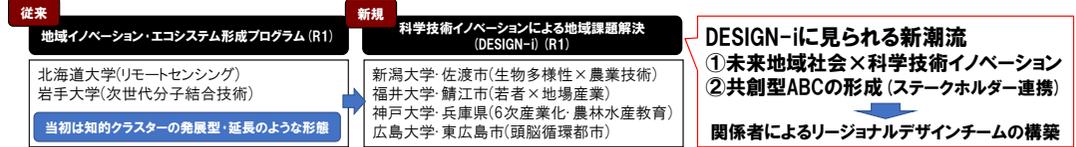
○イノベーションは**技術に限らず、モノである必要さえない**

○影響力で新聞・保険等の**社会的イノベーションに匹敵するものはない**

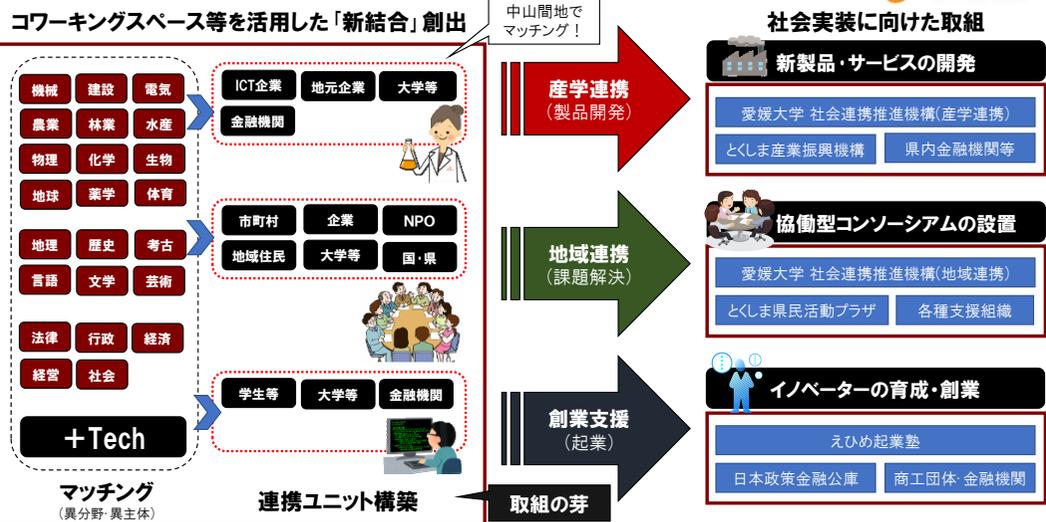
【ドラッカー, 1985】

2.地域イノベーション

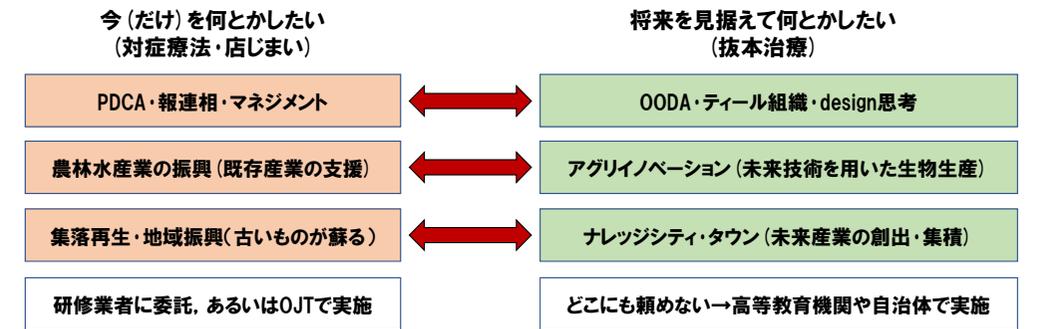
新しい、または大幅に改良された技術やアイデアから社会的に価値のある新たな価値を創造し、社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす**人間・組織・社会の新たな変革を道県レベルで実現**するための取組みのこと。



地域イノベーションマッチングと地方創生



真に必要な地域ニーズは何かを丁寧に探る



組織内、あるいは地域住民の手前、とても言い出せないが、実は左側が本心 (希望) の場合もある

イノベーターツアー (11/2~3, 神山SO)

参加者:11名(うち大人9名), ファシリテーター:加藤 遼(パナグループ)・竹内 和啓(グリーンバレー事務局長)

参加者は「企業経営者」「企業社員・高専FT」「旅行会社社員等」

「教える」から「引き出す」への変更



- ・参加者意向でプログラムを直前に見直し
- ・起業アドバイスや助成情報は二次的
- ・マイプロジェクト立案方式を採用

「先達」からの教訓の重要性



- ・カフェオニワの齊藤講師に高い人気
- ・先行起業者の決断の経緯に関心
- ・自分を押しもたらう「人」の存在が重要

マイプロジェクトの発表



- ・発表で参加者が次の行動を明確に認識
- ・参加者9人のうち8人が「また来たい」
- ・うち3名は近日中に独力で再訪予定

基本情報はグリーンバレーと徳島県が取りまとめて提供

フィールドワークで現地の声を聞く

「創造」を目指す新しい人の流れを創出

今後のマッチングやインキュベーションキャンプなどの実施に参考となる多くの知見を提供!

議論・合意を進める場づくり

進化するコワーキングスペース

～異業種・異分野交流の拠点～

第一世代

1 コワーキングスペース



- ・無線/有線LANによる高速通信
- ・可動性のある椅子・机
- ・おやつ、ドリンク類の入手
- ・懇親会も可能

第二世代

2 (サテライト) オフィス



- ・フレキシブルにオフィス設置可能
- ・高速通信環境が整備済
- ・設置オフィス間の敷居が低い
- ・コワーキングスペースに隣接

第三世代

3 簡易宿泊スペース



- ・数泊～夏休み相当の宿泊が可能
- ・低廉な家賃(宿泊費)
- ・サービスは最低限度
- ・コワーキングスペースに隣接

→しかし、結局は施設の整備後にコワーキングスペースを運営し、マッチングを仕掛けるコーディネーターやスーパーバイザーが不可欠

加藤(阿南高専)・正本(徳島県)(2018)の資料を改変

コワーキングスペースは現在の「貿易港」



のどけや(美馬市脇町)

古民家をゲストハウスに改築。外国人旅客だけでなく、ICT企業など、様々な立場の人が利用し、「情報・ビジネスのバザール」状態に。



マリノラボ(美波町日和佐)

水産研究所の建物を改修し、コワーキングスペースと会議室を設置。簡単な事務作業ができるカウンターや軽食・喫茶が可能なキッチンスペースも整備。



WEEK神山(神山町)

地野の食堂に4Kプロジェクターを設置。要望に応じて喫茶や食事を提供することも可能。宿泊機能あり。神山SOと連携。



ごぼごWork & Camp(兵庫県佐用町)

かつての中心部商店街をリニューアルして拠点整備。①イベントスペース、②ワークスペース、③宿泊スペースの3機能を一体的に整備。



ADLIV(美馬市脇町)

かつての工場を全面的に改修して拠点整備。①イベントスペース、②ワークスペース、③宿泊スペースの3機能を一体的に整備しているのは佐用町の事例と同様。

洗練されたカフェ風の空間で会議を！

「インスタ映え」に代表されるようにデザインの時代が到来しており、見た目やオシャレ感がますます重視される時代になっている。
昔ながらのタバコ臭い会議室では、人は集まりにくくなっている……



みらいと奥出雲

熊本未来会議室

Week 神山

旭川デザインセンター

服部(島根大学 2018)の資料を一部改変

会津大学産学イノベーションセンターの事例

平成30年度より、ICTオフィス運営法人取締役に就任
会津若松市

仕掛人は会津大学産学イノベーションセンターの藤井 靖史 准教授(現客員准教授(出向))

Code for Aidu でのオープンデータ活用(下はオープンカフェ)



左側:トヨタ活用センター 中央:磐城壽(酒蔵) 右側:福島UFC
市オープンデータのマッピング(図はAEDマップ)



交流棟

会津大学や地元ベンチャー企業等を含め多様な団体が入居・集う場所を想定

オフィス棟(450~500名規模)

首都圏等からの移転企業の入居スペース ICTやIoT関連企業の入居を想定

工期予定 平成29年8月下旬~平成31年2月末
事業用地 会津若松市東茶町118番(中心市街地内)
敷地面積 9,946.47㎡
入居予定 平成31年3月以降
駐車場 車:約190台、二輪車:約50台
所有者 樹AiYUMU(民)+会津若松市(官)の共有

会津若松市Webサイト

松江オープンソースラボ(松江市朝日町)



この調査に同行いただいた島根大学:服部准教授



1 松江駅前(北口)に立地

建物の2階, 所有・管理は定住企業立地推進課
元々はオープンソースソフトウェアに関する交流・人材育成拠点として設置
Wifi利用可
Windows/MacOSのPC貸出可
管理はまつえ産業支援センター(時間外や休日の管理は松江テルサ)

2 ワークスペースを分離(ガラスの向こう, 定員8名)

個別作業可能

3 会議室もセミセパレート可能

3分の2と3分の1に分割

4 内装は板材等を入れ, ライトブラウン基調

白の部分がが多く, 完全な内装改装には至っていない

元々のRubyを活用した開発交流拠点から変化

IAMAS (情報科学芸術大学院大学)



マルチスペース



カフェスタンド



出版物の展示スペース

1 研究室に必要設備が併設

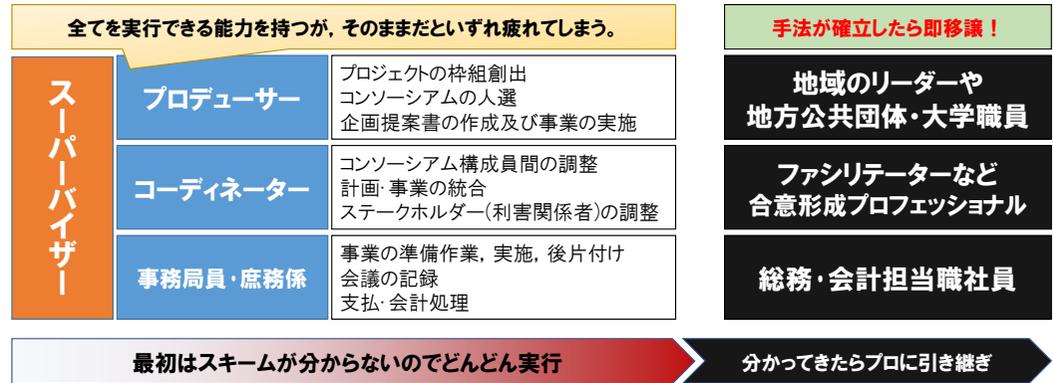
協議用スペース, カフェスタンド, 出版物展示スペースが研究室(=オフィス)に併設。
簡易宿泊スペースが整備されると, 完璧なワークスペース。
個々の作業・研究とマッチングがシームレスに連結。

2 隣接建物がシェアオフィス



プロジェクトを進める裏方の要

スーパーバイザーとは？



産学民官連携による協働活動の原則

(みなみから届ける環づくり会議 (2007))

1 民間主導の原則	民間の「参加」ではこれまでの審議会方式と同じ。民間をプロジェクトの中心に据えて、新規性が生まれる。単なる民間重視ではなく、「よそ者」「若者」「ばか者」の活用を常に意識。
2 会員対等の原則	国、県、大企業が威張っていても地域には何もならない。上役が威張っていても動かない。本当に仕事をしている真のキーパーソンが話せる環境を。あらゆる団体・個人が対等に話し合える場の構築が必要。
3 役割分担の原則	国や大企業に寄りかかっているのは、要求額が際限なく増大。お金がない主体は物資や人的資源で貢献。共通だが差異ある責任の徹底。身の丈に合ったプロジェクトの立案へ。

OODAサイクル型の人材も必要！



話し合いを進めるための道具

① 自己紹介カードの例



顔写真が入ることもある

参加者の氏名(ふりがなを括弧に)
所属組織・部署

個人を特徴づけるアイテム
☆星座(誕生日が月で特定されない)

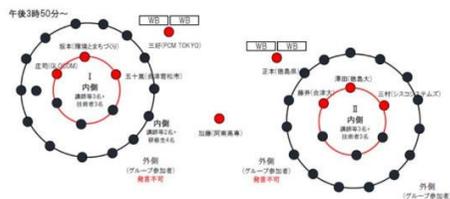
→振り返って確認できる

本日の行動の振り返り
☆朝ごはんは何を食べてきた
☆ここまでどんな交通手段で来たか

今一番気になっていること
(仕事でも私事でも可)

→ここに本題を持って来る

② フィッシュボール(金魚鉢)トーク



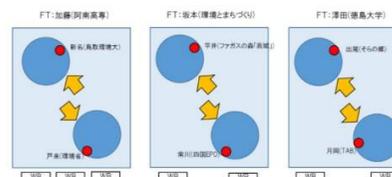
専門的なテーマで発言が出にくい場合に使用する方法

- ① 発言円(内側)と聴衆円(外側)の2つの円陣を組む。
- ② 当初、内側には専門家や企業・地方自治体の担当者などの当事者を入れて発言開始。外側は知識の少ない参加者が聴衆として参加。
- ③ 発言の終わった人は外側の聴衆席へ。外側の聴衆が発言者枠に入る。
- ④ 議論の前提となる知識がスムーズに入ってくるため、専門的なテーマでも参加者が意見を言うハードルが低くなる。



専門家や行政機関のキーパーソンは氏名・所属が分かるような表示を行うと、議論がスムーズに進む。

③ えんたくんワールドカフェ(1)



青丸は合意形成ツール「えんたくん」。1席当たり4名程度で使用。上にも形模造紙を貼って使用する。

共通した課題の共有の際に使用する方法

- ① 円形段ボール(えんたくん)に模造紙を張り、4~6人で膝に乗せる。
- ② 自分の意見を所属・氏名入りで2行程度記載する。
- ③ えんたくんを少し回転させて、横の人に意見を書いてもらうことを繰り返す。
- ④ 全ての人の意見が出た段階で、最初に意見を書いた人が振り返る。
- ⑤ ほかのグループや専門家とメンバーを交代させ、さらに意見やアイデアを募る。
- ⑥ 隣り合って意見を述べるため、攻撃的な意見が出にくくなる。



従来付箋をホワイトボードに貼っていた手法の凝縮版のような運用。一つの課題を多面的に観察できるので、ブレイクスルーが生まれることもある。

③ えんたくんワールドカフェ (2)

使った感想 (徳島県, 2017)

- えんたくんは身近に話が聞けて楽しい。
- 全員が発表できる。
- 自分の意見が言える。
- 多くの意見が抽出できる。
- 第一人者とも話せるのがよい。
- 内容がすごく詳しく分かる。
- 多様な参加者での議論がよい。
- 仕事でこうした方法を使いたい。
- 部局間・主体間の交流ができる。
- ネットワークづくりの場



更なる一工夫

- 優秀な**ファシリテーター** (参加者数が多い場合にはモデレーターも)を配置する。
- ※**自分の意見を話し続ける**ファシリテーターは×。
- ※小さな部署同士の会合であれば、隣の**全く関係のない部署**から議長役を選んでくるのも可。
- 専門家以外に、中立的・科学的な観点から意見の言える**コメンテーター**を参加者の中に入れておく (例えば技術士会など)。
- 難解なテーマの場合、専門家等の意見を**グラフィックレコーディング**で記録し、次の振り返りで使う。



意見の整理

- 意見の結果を1枚物のプロジェクト (あるいは課題分析) ペーパーに落とし込む。
- 多様な意見を表やツリー図の形で取りまとめ、次の議論の際に振り返る。

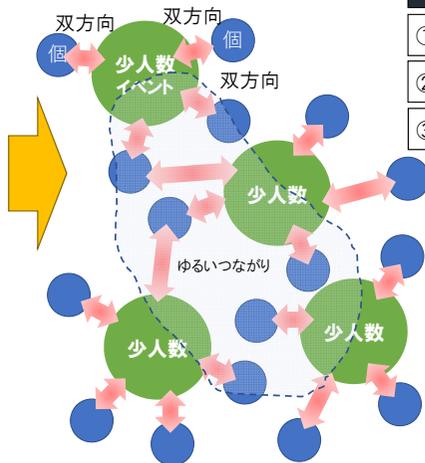
えんたくんを使ってみましょう
(4人1組, フェルトペンを持参)

事業推進のためのユニット構築

旧来型イベント



次世代型イベント



運営者に必要な能力

- ①キーパーソンの招へい
- ②合意形成と役割分担
- ③資金の獲得

※②はメンバーの選択と選抜の場合もある。

いいマッチングイベントを開催できるかどうかは、これからのプロジェクト推進の生命線。

服部(島根大学 2018)の資料を改変

さらにスキルを上げていきたい

文科系学域
「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」

未来のソーシャルイノベーターを育成する

愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム(東予)

【研修方法】
対面またはオンライン(同席型)
※対面は定員50名(40名程度)

開催期間 9月23日(土)～2月17日(土)【全14日間】

会場 愛媛大学地域協働センター西条

応募資格 次いずれかに該当する者
①地方創生や地域づくり活動に実践・経験している者、または興味・関心がある者
②大学を卒業した者
※本プログラムに関するアンケート調査に協力できる者

募集期間 令和5年7月18日(火)～令和5年8月21日(月)【申込必着】

受講料 10,000円 ※本年度は文科系学域の補助事業として実施

募集要項は愛媛大学社会連携推進機構HPからご確認ください。 <http://ccs.ehime-u.ac.jp/epi/>

問い合わせ先 愛媛大学社会連携推進機構事務局(愛媛大学地域協働センター) 一室 電話:077-831-7100
〒790-8577 愛媛県新居町山内大字野上 710-0899 FAX: 077-831-7111 E-mail: shun@ehime-u.ac.jp

① 履修証明プログラムの活用

- 【地域創生イノベーター育成プログラム】
- 最新の動向から**合意形成**まで学べる。
 - 受講料は今年**1万円(安い)**。
 - 最後の演習と成果発表以外の**すべての講義でオンライン可**。
 - 修了者には**称号付与**。

② 資格の取得

- 【国家資格・民間資格の取得】
- 技術士・RCCM・測量計量関係
 - ファンリテーション関連(民間資格)
 - キャリアコンサルタント(スタートアップ系)
 - IoT関連資格

③ ウェブコンテンツの活用

- 年間利用費:数万円程度
- オンデマンド配信
- コンテンツは数百講義

最終的には大学院入学

教育訓練総研認定講座

愛媛大学大学院
地域創生イノベーター育成プログラム
令和5年4月開校

HIROSHIMA
BUSINESS SCHOOL
MANAGEMENT
SCHOOL
HIGASHI-KAMATA CAMPUS
2022